

jìng guǐ shén ér yuǎn zhī
敬鬼神而遠之。
きしん けい これとお ようや
鬼神を敬して之を遠ざく 〈雍也第六〉桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄
うえだ あつ お

この表題の前後は次のようになっています。樊迟问知 (Fán chí wèn zhī)。子曰 (Ziyuē)、务民之义 (Wù mín zhī yì)、敬鬼神而远之 (jìng guǐ shén ér yuǎn zhī)。可谓知矣 (Kě wèi zhī yǐ)。(樊迟知を問う。子曰く、民の義を務め、鬼神を敬して之を遠ざく。知と謂うべしと)。樊迟という弟子が「知」について孔子に尋ねたところ、孔子は「人間としてやるべきことをやりなさい、鬼神のことは敬して遠ざけなさい、これが「知」というものです、と答えました。ここで言う「民之义」とは、人間としてやるべきこと、世のため人のためになる行為という意味です。「知」とは知性という意味です。では「鬼神」とは何でしょうか。

日本で鬼おにと言え、節分でおなじみのように、頭に角をはやし、大きな棍棒を手にした邪悪な化け物というイメージがありますが、鬼 (guǐ) という文字はもともと死者を表わす象形文字でした。上の部分が頭蓋骨で、下の部分が折り曲げた足の骨の形を表わしています。これがさらに死者の霊を表わすようになり、この霊が時には生きた人間に祟りをもたらすということから、邪悪なものを表わすようにもなりました。

一方、神 (shén) には上から降りてくる人知を超えた力という意味があります。これが天と結びつき天神とも呼ばれます。この力に寄り掛かかるのがいわゆるかみだの神頼みです。

孔子の基本的な考え方からすれば、死者の霊、

特に先祖の霊は尊ぶべきものであり、天の神も敬うべきものです。しかし孔子の生きた時代は、旧来の社会秩序や価値観が崩壊し、各地で戦乱が相次ぎ、民は苦しみ、人心は荒廃し、世上には鬼神を騙かたる無秩序な風俗信仰が蔓延まんえんしていました。こうした流れを断ち切り、民を苦しみから救い、あるべき社会の姿を取り戻すにはどうしたらよいか。

これにはまず具体的な行動を起こす必要があります。しかし刑罰や武力による強制は、さらなる混乱をもたらすだけです。孔子の目指したものはこの世に生きる人間の道義心の回復と知性の確立でした。この考えを、各国の君主たちに植え付けること、孔子はさっそくこれを行動に移しましたが、一人ではなかなかうまくいきませんでした。そこで、道義心と知性を備えた優秀な若者を数多く育て上げ、彼らを君主に仕えさせ、君主の持つ本来の機能を回復させること。これが孔子の究極の目標となりました。

この考え方からすれば、無秩序な風俗信仰は邪道ということになります。しかし信仰心そのものを否定することは孔子の本意ではない。そこで、敬して遠ざけることにした、というわけです。ちなみに野球でよく耳にする敬遠の四球はここからきています。強打者は鬼神と同様、敬して遠ざけた方がいい。君子危うきに近寄らず。これも知性の一つでしょうか。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)